

東戸塚本部道場創立25周年おめでとうございます

岡 春庭

Column

この度は、本部道場創立25年ということで、改めて時の流れを感じます。ところで私自身、創立時のことは、全く知らないのです。といいますのは、当時は別の師範に師事してまして、その師範の方が遠方に引っ越され、仲間内だけで稽古をしていました。ですが、やはり物足りなく途方にくれていました。そこで当時から著名の武田師範に、師事をお願いしましたところ、快く了解を頂き、湘南合気道連盟に入会したのです。ですから、記憶によりますと、本部道場創立後2、3年後に初めて道場に伺ったこととなります。

初めて稽古に伺うために道場に向かったときのことは、記憶が鮮明です。実は道が分からなかったのです。その頃は東戸塚駅から道を降りていき、ガソリンスタンドまでは、今と同じでしたが、そこからは田んぼの造成工事中で、道があちこち迂回し、初めての人は絶対辿りつけないほど、複雑な道でした。お陰で、30分ほど遅刻したのです。今のようにバイパス沿いにまっすぐな道ではなかったのです。

創立から10年の時代、その後の10年、最近5年と分けて振り返りたいと思います。

当時の稽古で思い出すのは、何とんでも外人が多かったことです。記憶に残るところでは、アメリカからティムさん、ドイツからカールさんがいました。他にもいたのですが、英語が苦手ですので、覚えていません。もちろん、ルネさん、リアさんはいました。

ルネさんは今でもそうだと思いますが、ビールが大好きで、女子更衣室の冷蔵庫のビールを黙ってよく飲んでいました。

それから、何とんでも稽古をする人が多かったです。いつも40名位は稽古していたのではないのでしょうか。受身をするのも大変でした。特に夏は人数が多すぎて、それに道場は窓を開けていても、空気が逃げない状況でしたから、酸欠状態になるほどでした。ですが、とても充実した稽古でした。

道場創立から10年後のころ、私はそのころ住んでいた追浜から引っ越すことになりました。どこに住みたいということではなかったのですが、やはり道場に近い場所で稽古に通いたいということで、相鉄線いずみ野に住まいを構えました。その頃は、確か毎月1回黒帯会があり、今の師範の方々もお出でになり、



研究会 2005 (東戸塚 A.K.I. 本部道場)

とても激しい力のこもった稽古でした。この黒帯会の稽古が終わると、本当に疲れました。また年1回か2回黒帯合宿が行われ、純粋に稽古三昧を味わいました。みんな若かったのです。

当時は門谷さんがいつも稽古に来ていました。門谷さんの、受けのすごさにびっくりしました。触れただけで飛んでしまうのです。一緒に稽古していて、自分がすごいと思いましたが、そうではなかったのです。違う人と組むと、全然うまくいかないのです。単なる勘違いでした。ですが、この頃から、飛び受身、腹受身の伝統が作られてきたのです。また、2000年にスタートした研究会も、この頃です。

最近の5年を思い返しますと、何とんでも師範の技が全く変わったことです。言葉ではうまく言い表せませんが、気や心をも活用する新しい合気道なのかなと思います。合気道の素晴らしさをさらに体験できることはとても幸せです。このことは、合気道を単なる武道ではなく、日頃の生活に活かせる武道、また流派を超えた武道、地域や国を超えた武道として、さらには武道を越えたものとしての位置づけなのでは、と思われれます。それがA I K I G A I Aとしての今後につながるのではと考えられます。

創立後の10年はエネルギッシュな時代と言い表しますと、その後の10年は円熟の時代、その後から今に至る5年は闊達の時代、と言ってもいいのかも知れません。

これからの本部道場及びA K Iの益々の発展と、武田師範のご健勝ご隆昌を心から祈念申し上げます。